

## NPO 法人 森林再生支援センターニュース

特定非営利活動法人 森林再生支援センター 理事長 藤田 昇  
〒603-8145 京都市北区小山堀池町 28-5  
TEL 075-211-4229 FAX 075-432-0026  
URL : <http://www.crrn.net> E-mail : [info@crrn.net](mailto:info@crrn.net)

### クスノキはどんな常緑樹か

森林再生支援センター理事長  
藤田 昇 (総合地球環境学研究所)

常緑樹とは、1年中生きた葉をつけている樹木で、温帯に位置する日本では冬でも葉が枯れずに生きた葉をつけている木で、葉の寿命が1年以上であるため年中生きた葉をつけている。日本の暖温帯の極相は照葉樹といわれる常緑広葉樹林で、シイ、タブ、カン類など常緑広葉樹が優占する。これらの樹木は個々の葉の寿命が1年以上なので、当然木としては常緑である。今回取り上げるクスノキも常緑広葉樹である。4月初めに新葉を開き、その直後に古い葉を落とすので、葉の寿命が1年あまりの常緑樹だと思っていた。しかし、個々の葉の寿命を詳しく調べてみると、春の開葉時に新しい葉が開葉し古い葉が落葉するのは確かである。しかし、春の新葉開葉時には、写真(図1)のように、枝の先端の開葉中の小さな葉と落葉直前の基部の古い葉(いずれも葉の色が赤みを帯びているが意味合いが異なる。新葉は光合成開始前の光エネルギーによる障害を防止するための赤い色素であり、古い葉は葉緑素が抜けたあとの紅葉)以外に中間に緑の葉が存在する(図1)。

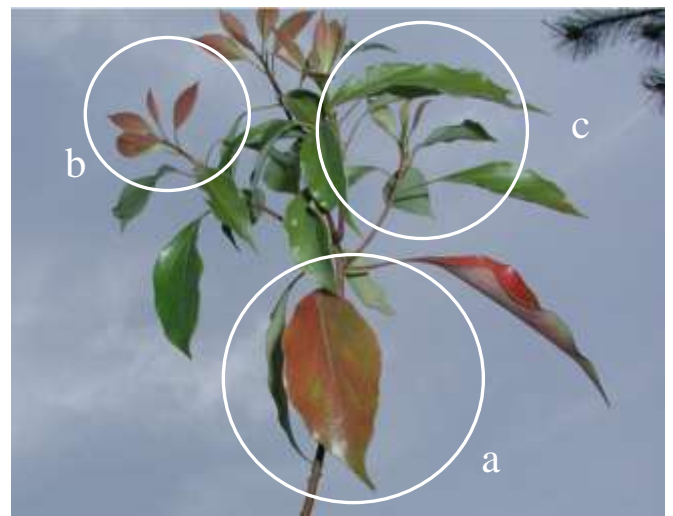


図1 4月上旬のクスノキの枝。落葉直前の紅葉した基部の葉(a)と開葉途中の赤みを帯びた先端の新葉(b)、中間の緑の葉(c)から成り立つ。

この緑の葉は何かというと、実は秋に開葉して越冬した葉である。クスノキには春だけでなく、秋に開葉する葉があるのである。また、落葉も春だけでなく秋にも見られる。春に開葉した葉は一部

が秋に落葉し、残りは翌年の春に新葉開葉中に落葉する。秋に開いた葉は一部が翌年の春に新葉開葉後に落葉し、残りは翌年の秋に落葉する。すなわちクスノキには春と秋に開葉する葉があり、寿命も1年の葉と半年あまりの葉の両方がある。したがって、一本の枝や木全体で平均すると葉寿命は1年より短くなり、1年より長い他の常緑広葉樹とは異なる。

個々の葉の寿命が1年に満たないのに常緑樹という樹木は熱帯に存在する。葉の寿命は1年に満たない(短い場合は数ヶ月)が落葉前に新しい葉が開葉すれば1年中生きた葉をつけており、常緑樹である。落葉樹ではあるが、オオバヤシャブシやクリは春から秋まで1つの枝で何枚も葉を交代させて展葉している。これが熱帯で冬がなくなって年中葉を交代させると常緑となる。クスノキは1年より短い葉をもつ点で、シイやカシの暖温帯の常緑広葉樹より熱帯生的な特徴をもっている。クスノキは西南日本に広く分布し、鹿児島、熊本、佐賀、兵庫各県の県木となっている。中国やベトナムに分布するので南方系の樹木であることは間違いないが、日本の在来種と外来種(史前帰化植物)と両説があり、古くから社寺に植えられ、近世は樟脳をとるために九州や四国で広く植えられたため、人が植えたのか自然生かが判明しない。クスノキは東山などでは林冠ギャップに幼樹が見られるので陽樹のように思えるが、寿命の短い陽樹とは違って、大きくなると生長が止まって長寿命化する。高さ20mをこえる巨木になるので、天然記念物に指定されている木も多い。環境省の巨樹巨木調査では上位10傑の内6本がクスノキ(幹周20mをこえる)である。関西では、門真市三島神社の樹齢1000年以上といわれているクスノキ(幹周12m)が最大といわれている。京都市では、そのような巨木はないが、有名なクスノキが見られる。京都御苑内の宗像神社のクスノキが有名だが、青蓮院など市内各地の社寺にも多い。京都大学の時計台前や市内の小学校にも植えられている。樟脳がとれるように、耐水性と耐虫性があるので、古くから船材として利用され、

宮島の厳島神社の海に面した大鳥居にはクスノキが使われている。初期の仏像の彫材としてもよく利用され、また、木魚としてはまるやかにこもった音で最高とされている。変わったところでは、クスノキの葉を食べるヤマユガ科の蛾の幼虫から釣り糸のテグスがかつて作られていた。

葉の寿命と最大光合成速度には種間で負の相関があることが知られている。常緑樹よりは葉寿命の短い落葉樹の方が最大光合成速度は高く、落葉樹でも葉寿命の短いオオバヤシャブシの方がコナラより最大光合成速度は高い。常緑樹では、葉寿命が約2年のソゴより1年に満たず短いクスノキの方が最大光合成速度は高い(図2)。種間ではなく種内で、気温気候の異なる地点間を比べると、落葉樹では、温暖なほど葉寿命は延び、最大光合成速度は低下する。一方、常緑樹は、温暖なほど葉寿命は短くなり、冬季の光合成速度が高くなる。一枚の葉の生涯の稼ぎは葉寿命の長さに関わりなく種内では一定であることがこれらの結果と関係しているようである。すなわち葉を作るコストと葉で稼ぐ利益の関係(コストパフォーマンス)は種内では違いがないようだ。常緑樹の葉寿命が1年より長い場合は葉寿命を変えられる。しかし、クスノキのように1年だと全体として葉寿命を1年より短くすることはやりにくい。例えば、すべての葉の葉寿命が0.9年になると落葉期が出現して常緑樹ではなくなる。その一つの方法が先に述べたクスノキである。クスノキは葉寿命が1年の葉と半年あまりの葉があり、その比率を変えると全体の葉寿命が変化する。クスノキについて、地域間を比較していないので、クスノキが暖かい気候では半年あまりの寿命の短い葉の比率を増やしているかは分からない。しかし、ウラジログシではそのような方法が見られる。ウラジログシは新葉開葉後にすべての古い葉を落とすので、葉寿命は1年である。実は、ウラジログシは、枝によっては二度伸びする。二度伸びは古い葉の落葉後に生じるので、二度伸び枝の葉の寿命は1年より短い。二度伸びしない枝の葉の寿命は1年あまりであるが、二度伸びした枝の葉の寿命

は11ヶ月とか1年より短くなる。初めの枝と二度伸びした枝の全体でも平均すると葉寿命は1年より短くなる。現にウラジロガシは温暖な気候では二度伸びする枝の比率が高いが、寒冷な気候では二度伸びの頻度が低くなる。ウラジロガシはこのように二度伸びする枝の比率を変えることによって木全体の葉寿命を変えている。

クスノキは温暖な地方の植物らしく、大津市上田上（標高約150m）では冬は休眠状態となって光合成活性がゼロ近くになる（図2）。植えられた木ではあるが、シイも上田上では冬は休眠する。ただし、クスノキに比べると不完全で、光合成活性はゼロではなく、暖かい日には結構高くなる。ソヨゴは冬に低下するが、結構高い（図2）。アラカシは、個体によって違いがあり、ソヨゴに近い個体とシイに近い個体があった。クスノキの冬の休眠は遺伝的ではなく、上田上の気候に対する反応のようである。上田上に移植されて数年経った個体は休眠を示したが、その夏に移植された個体はその年の冬には休眠は見られなかった。それまでの暖かい地方に植わっていた名残かもしれない。

常緑樹の落葉樹と比べての意義は何か。一つは、落葉樹が葉をつけていない冬季にも光合成が可能であり、春季に落葉樹が葉を開葉する前に早くに光合成ができることである。現に、秋に落葉した落葉樹は春に新葉が開葉してからでないと光合成ができないが、ソヨゴやクスノキの常緑樹は春に新葉が開葉する前から前年からの古い葉であわてて新葉を作ることなく、冬や春先に光合成ができて稼げる（図2）。もう一つは、葉に貯蔵物質が貯められることである。落葉樹は枝や幹、根に貯蔵物質を貯め、それを連流して春に新葉を作る。常緑樹が葉に貯蔵物質を貯めて転流して新葉を作る点は同じだが、枝だけよりたくさん貯蔵できるとか、幹や根からよりは短距離で輸送できるとかの利点が言われている。最後に1年あたりの葉を作るコストを下げられることである。落葉樹は毎年開葉して落葉するので1枚の葉のコストが

毎年必要となる。常緑樹は、葉の寿命が2年だと、1年当たりの葉を作るコストは半分になる。もちろん落葉樹が落葉している期間も葉を維持するコストが必要なので単純に半分ではないが、常緑針葉樹のように葉寿命が長くなればそれだけ葉を作る1年のコストは小さくなる。もし、10年なら10分の1となる。したがって、低温で光合成速度が小さくなるとか、生育期間が短いとか、葉を作るコストを1年では回収できないような不適な環境の場合には常緑は必然と為る。

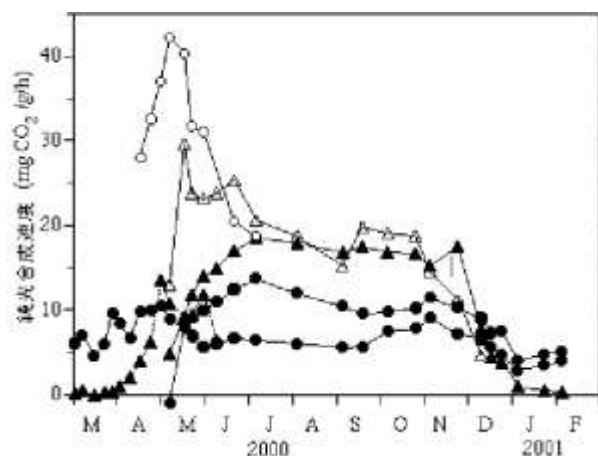


図2 落葉広葉樹と常緑広葉樹の純光合成速度の季節変化。大津市上田上で2000年3月から2001年2月まで測定。○：オオバヤシャブシ、△：コナラ、▲：クスノキの当年葉と前年葉、●：ソヨゴの当年葉と前年葉。

クスノキの葉の開葉と落葉（フェノロジーという）を観察した話からそれにまつわる話を述べてきた。長さや時間をはかる単純な観察は誰でもできる。その観察によって誰でも自然科学者になれる。ただ1本の木を1回はかっても何も言えない。何年かはかって年による気候の違いを比べるとか、環境の違う場所で比べるとか、違う種類を比べるとか、何らかの比較が必要である。比較というのは難しい方法ではないが、野外観察などにおいては不可欠の方法である。

## 特定非営利活動法人 森林再生支援センター 第 14 回定時総会 議事録

日 時：平成 24 年 8 月 12 日（日）午前 11：00～12：00

場 所：キャンパスプラザ京都 第 2 演習室（京都市下京区西洞院通塩小路下るル）

出席者：当日参加 17 名、委任状 32 名 計 49 名

### 第一号議案 平成 23 年度（平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）事業報告

#### I. 特定非営利活動に係る事業

##### ①地域自然環境の保全、再生に係る調査及び研究

###### 1. 自然再生研究（独自事業）

平成 23 年 8 月 14～17 日および 8 月 27～29 日にかけて、前鬼調査区と弥山調査区（ともに奈良県）において、調査区に設置してある防鹿柵内外の実生・稚樹について再調査を行った。

###### 2. 地域性苗木研究（独自事業）

地域生態系構成種の中から、現在、シカ害等により人為的導入によらなければ存続の難しい植物（樹木）について、京都三山域において調査を行った。この結果、京都の地域生態系のなかで急ぎ、地域性苗木の育成を図るべき樹種のリストを作成中で、現在 50 種程度が挙げられている。

##### ②地域自然環境の保全、再生に係る実施計画及び実施事業

###### 1. 「京の苗木」生産供給体制整備事業に係る生産技術指導業務（京都市林業振興課 委託）

京都市で取り組んでいる地域性苗木の生産者育成事業の一環で、種子採取・生産技術指導を昨年度に引き続き行った。平成 24 年 4 月には生産者による協議会が設立された。

###### 2. 風致保全緑地内荒廃法面回復緑化事業業務（京都市風致保全課 委託）

京都市・桂坂（西京区北沓掛町）の北西端にある岩盤が露出する法面（斜面長 10m, 約 1.6ha）の緑化計画および施業を行った。この事業は緊急雇用対策事業で行われ、13 名の方々を採用し取り組んだ。樹木を導入する岩盤緑化手法として、樹木生育可能箇所の抽出、生育可能樹種の

抽出の双方を行い、活着補助工を工夫しながら苗木植栽を実施し、また並行して防鹿対策を実施する手法をモデル的に実現した。さらに、ここでは抵抗性アカマツ苗の活着試験もあわせて行っている。なお、防鹿対策としては、対象地の一部分について二重柵のゾーンディフェンスで全体を囲い、かつ内側にパッチディフェンスを構築したが、シカ密度がきわめて高く、残念ながら平成 24 年 8 月 3 日現在、すでにゾーンディフェンス部はシカに突破されている。

###### 3. 四季彩の森復活プロジェクトに係る植生等調査及びモデル施業設計監理業務（京都市林業振興課 委託）

京都市が取り組んでいる「四季彩の森復活プロジェクト」の一環で、ナラ枯れやシカ食害により荒廃した自然環境を復旧するため、「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」に基づく林相改善のモデル事業として企画されたものを本センターで受託した。この受託事業では、林冠木欠失部のシデ類、モミ、ケヤキ等による補植を中心とした林相改善の設計および施業・施工監理を行った。防鹿対策は、巢植え群ごとの防鹿ネットと苗木 30 本程度ごとのパッチディフェンスを併用している。

###### 4. 平成 23 年度東山風景林林相改善事業実施計画立案及び監理業務（京都伝統文化の森推進協議会 委託）

京都市・清水山国有林（京都市）における林相改善事業の企画（計画書案の作成）と、施工時の監理業務を今年度も行った。平成 23 年度は、山頂部の標識植栽として石組みをした上で、イヌマキ、コバノトネリコなどを植栽した。その他、コジイ林の間伐後に落葉広葉樹、アカガシ、モミを主とする補植も行い、コジイー斉林の閉鎖的な林分をより多様性の高い林分へ林相転換を進めている。

5. 寿長生の郷四堂周回散策道整備事業（(株) 叶匠寿庵 委託）

滋賀県大津市にある叶匠寿庵・寿長生の郷で、放置されてきた里山を多くの人々が訪れる魅力ある生きた里山へと変えていくために、森に手を入れて散策道整備を行った。ここでは新たな里山再生と利用のためのより快適性の高いアクセス路の試験としての意義づけも考慮した。

③地域自然環境の保全、再生に係る行政機関、事業主体、特定非営利活動法人、及び市民ボランティア団体への助言または技術的援助

1. フィールドソサイエティの法然院裏山植生管理計画策定を支援し、フィールドソサイエティ主催「善気山で観察の森づくり」へ講師を派遣した（専門委員1名）。
2. 京都伝統文化の森推進協議会（事務局：京都市）へ委員を派遣した（理事1名）。
3. 森林づくり基金運営委員会（京都モデルフォレスト協会）へ委員を派遣した（理事1名）。
4. 嵐山国有林の取扱に関する意見交換会（林野庁 京都大阪森林管理事務所）へ委員を派遣した（理事1名）。
5. 大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針検討ワーキングチーム（林野庁近畿中国森林管理局）へ委員を派遣した（理事1名）。
6. 野生鳥獣による森林生態系への被害対策技術開発事業技術指導委員会（(株) 野生動物保護管理事務所）へ委員を派遣した（理事1名）。
7. 国土交通省 近畿地方整備局の職員研修会へ講師を派遣した（平成24年2月3日 理事1名）。
8. 国際協力機構(JICA)が行う研修会へ講師を派遣した（平成23年11月18日 理事1名）。
9. 三井寺（滋賀県大津市）より、所有する山林の森林育成計画立案への協力願いがあり、講師を派遣した（理事1名）。
10. 小規模多角経営人材育成事業 体験企画プログラマー育成セミナー（岡山県新庄村）へ講師を派遣した（平成24年3月22日,23日 理事1名）。
11. UR都市機構 西日本支社 彩都開発事務所が行っている法面緑化現場へ専門技術者を派遣した（理事1名）。

なお、この現場は大阪平野の北端部を広く占める広大な法面で、シカ害をとまなうため森林育成が難しいにもかかわらず、快適性の高い森林へのニーズの高い現場である。そこで、自然配植の考え方・技術を適用しながら、造園作業員の技術的指導に携わった。

④地域自然環境の保全、再生に係る講演、出版、教育事業

1. 村田源理事長退任・名誉理事長就任記念講演会「日本の森林を構想する」を開催した（平成23年7月24日）。

この講演会は京都大学百周年時計台記念館にて前年度総会終了後に行われ、参加者は約90名。

⑤地域自然環境の保全、再生に係る行政機関、事業主体、研究機関、教育機関、学会との交流

1. 「天若湖アートプロジェクト2011」を後援した（平成23年8月6日,7日 天若湖アートプロジェクト実行委員会主催）。
2. 「本山寺自然環境保全地域を考える協議会・2011年度報告集会」に参加した（平成24年3月31日 本山寺自然環境保全地域を考える協議会主催）。
3. 「京の川の恵みを活かす会」（京都大学防災研究所 竹門康弘代表）に参加した。鴨川の中下流域では鮎の天然遡上を促すための魚道整備を行っているが、今後上流部での溪畔林整備の計画、実現へと進むこととなっている。

⑥その他本法人の目的達成のために必要な事業

1. ニュースレターの発行  
平成23年11月30日に発行し、全会員に配布した。
2. ホームページの更新  
ホームページの更新を随時行った。  
→ <http://www.crrn.net>

第二号議案 平成 23 年度会計収支報告

平成23年度「特定非営利活動に係る事業」会計収支計算書  
平成23年7月1日から平成24年6月30日まで

科目	金額	
<b>I. 収入の部</b>		
1. 会費収入		
入会金 (2名分) 収入	¥6,000	
年会費 (54名分) 収入	¥228,000	
賛助会費 (5口分) 収入	¥50,000	
		¥284,000
2. 受託費収入		
風致保全緑地内荒廃法面回復緑化事業	¥33,477,150	
「空の苗木」生産供給体制整備事業に係る生産技術指導業務	¥1,975,050	
四季彩の森復活プロジェクトに係る植生等調査及びモディル地業設計監理業務	¥4,688,355	
平成23年度東山地区森林相改善事業実施計画立案及び監理業務	¥593,775	
寿長生の郷西金田田放棄地整備事業	¥1,890,000	
UR都市機構彩都 専門技術者派遣	¥1,008,000	
		¥43,632,330
3. 助成金・謝金収入		
フィールドサイエントー講師謝金	¥20,000	
三井寺講師謝金	¥200,000	
新庄村講師謝金	¥50,000	
		¥270,000
4. その他収入		
銀行・郵便局利息	¥1,568	
寄附金	¥3,000	
「世界遺産をシカが嗅ぐ」印税 (番香からの寄附金)	¥17,453	
		¥22,021
当期収入合計		¥44,208,351
前期繰越収支差額		¥8,406,294
収入合計		¥52,614,645
<b>II. 支出の部</b>		
1. 管理費		
事務用品費	¥2,426,940	
通信費	¥204,016	
パソコン関連費	¥1,210	
事務用品費	¥170,186	
印刷費	¥3,748	
旅費交通費	¥21,260	
会議費	¥13,546	
車両関係費	¥0	
水道光熱費	¥72,261	
地代家賃	¥564,000	
賃借料 (コピー機)	¥81,900	
賃借料	¥0	
備品費	¥0	
修繕費	¥15,750	
保険料	¥70,130	
法定福利費	¥369,188	
雑費	¥72,079	
申請諸経費	¥1,800	
租税費	¥2,579,200	
		¥6,667,014
2. 事業費		
	¥33,613,592	¥33,613,592
3. 独自事業費		
	¥823,938	¥823,938
当期支出合計		¥41,104,544
当期収支差額 (当期収入合計-当期支出合計)		¥11,510,101
次期繰越収支差額 (収入合計-当期支出合計)		¥11,510,101

第三号議案 平成 23 年度会計監査報告

平成 23 年度の会計監査において不正がなかったことが武田純監事より報告された。

第四号議案 特定非営利活動促進法改正 (定款変更含む) に伴う審議

1. 特定非営利活動促進法改正 (平成 24 年 4 月 1 日施行) 内容及びそれに伴い変更・修正される定款箇所について説明がされたところ、すべて承認された。

2. 特定非営利活動促進法改正により、認定 NPO 法人へのステップとなる仮認定制度が導入されたことを利用して、本センターも認定 NPO 法人を目指すかどうかの方向性も含め、今後理事会で検討を進めていきたいという報告があった。

第五号議案 平成 24 年度 (平成 24 年 7 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日) 事業計画案

①地域自然環境の保全、再生に係る調査及び研究

1. 自然再生研究

- ・自然再生型緑化の基礎調査・研究を各方面から引き続き進める (責任担当者 高田理事)。
- ・弥山調査区 (奈良県)、前鬼調査区 (奈良県)、大台ヶ原・大杉谷調査区 (三重県) において、シカ害によって衰退した植生回復のための前段となる現地調査及び自然再生のための試験的研究を実施する (責任担当者 松井理事)。
- ・人工林の林相改善研究—放置された人工林の立地評価を行い、その上で様々な目標の下に行う林相改善の目的及び手法の研究を三重県大台町、大台ヶ原西大台の天然ヒノキ林、及び京都市、大津市において行う (責任担当者 高田理事)。

2. 地域性苗木研究

- ・地域性苗木品質への考え方、品質保証システムの確立に資するために、関係諸団体へのヒアリングを行い、調査・研究を進める。
- ・地域生態系保全のための適用地域性苗木の検討を進める (責任担当者 高田理事)。

3. H24 大台ヶ原自然再生調査

奈良県大台ヶ原に環境省が策定した大台ヶ原自然再生推進計画に基づき、今後の森林生態系の保全再生にむけた取り組みの検証等を行うために必要なデータとして、高さ 20cm 以上の稚樹調査 (本数のカウント) を行い、データを収集する ((株) 環境総合テクノスからの委託業務; 責任担当者 松井理事)。

②地域自然環境の保全、再生に係る実施計画及び実施事業

1. 京都伝統文化の森推進協議会

京都伝統文化の森推進協議会で進めている林相改善事業計画の実施計画案の作成を行う (責任担当者 高田理事)。

2. 平成 24 年度四季彩の森プロジェクト事業

昨年度に引き続き京都市から四季彩の森プロジェクト事業に係る現況調査及び計画立案を行う。景観的機能と防災的機能、地域生態系保全機能にすぐれた林相へ改善することを目的とする (京都市林業振興課からの委託業務;

責任担当者 高田理事)。

3. 寿長生の郷四堂周回散策道整備事業 第Ⅱ期工事

平成 23 年 3 月に行われた散策道整備事業の第Ⅱ期工事として散策道周辺に植栽を行う((株) 叶匠寿庵からの委託業務；責任担当者高田理事)。

③地域自然環境の保全、再生に係る行政機関、事業主体、特定非営利活動法人、及び市民ボランティア団体への助言または技術的援助

1. 京都の森のあり方を考え、森林育成を図ることに資する事業

京都の森林について、森林育成を図ろうとする市民団体、社寺、行政機関と協力しながら、調査、実施試験を行うとともに、永続的な森林管理、バイオマス利用のための枠組みについて考える。

2. 以下の 2 つの自然再生協議会発足に向けて引き続き、助言を行う。

a. 「(仮称) 伊勢源流域大台ヶ原山系古事の森育成協議会」一大台町(事務局)、宮川森林組合、三重県、林野庁などと協議を進めている(責任担当者 高田理事)。

b. 「(仮称) 天川村大峯山自然再生協議会」一天川村(事務局)、環境省、林野庁、奈良県などと協議を進めている(責任担当者 松井理事)。

3. 大津市三井寺所有林の森林管理・育成計画の策定の技術的援助

三井寺からの依頼に基づき、三井寺所有林全体を生物多様性、景観性、用材林供給、防災的機能、歴史文化性に配慮した森林へと林相改善をすすめるための全体計画の作成について技術協力を行うとともに、その実施技術についてもアドバイスをを行う(責任担当者 高田理事)。

④地域自然環境の保全、再生に係る講演、出版、教育事業

1. シンポジウム「ナラ枯れが大変だ！ナラ枯れ後も大変だ！」を開催(平成 24 年 8 月 12 日)。

2. CRRN のこれまでの活動をまとめた報告書の作成、パンフレット改訂版の作成

⑤地域自然環境の保全、再生に係る行政機関、事業主体、研究機関、教育機関、学会との交流

1. 「天若湖アートプロジェクト 2012」に後援をする(平成 24 年 8 月 4 日, 5 日 天若湖アートプロジェクト実行委員会主催)。

2. 「京都洛東ロータリークラブ 創立 25 周年記念事業」に後援をする(平成 24 年 9 月 29 日, 10 月 27 日 京都洛東ロータリークラブ主催)。

その他、各種イベントの参加要請のあったものについては、その意義を確認した上で参加。

⑥その他本法人の目的達成のために必要な事業

1. ニュースレターの発行
2. ホームページの更新

第六号議案 平成 24 年度事業予算案

特定非営利活動法人森林再生支援センター

平成24年度事業予算書

(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

I. 収入の部	
1. 会費収入	
..... 入会金(3名)	9,000
..... 年会費(85名)	255,000
..... 賛助会費(5口)	50,000
2. 行政等からの受託費	7,500,000
3. 助成金・謝金	100,000
4. 前年度からの繰越金	11,510,101
<b>合計</b>	<b>19,424,101</b>
II. 支出の部	
1. 管理費	7,854,000
..... 事務局人件費	3,500,000
..... 通信費(電話代金含む)	350,000
..... パソコン関連費	150,000
..... 事務用品費	300,000
..... 印刷費	10,000
..... 旅費交通費	50,000
..... 会議費	50,000
..... 水道光熱費	200,000
..... 地代家賃	860,000
..... リース料	84,000
..... 備品費・資料費・修繕費	200,000
..... 保険料	100,000
..... 法定福利費	500,000
..... 雑費	300,000
..... 租税費	1,200,000
2. 受託事業に関する調査費	5,250,000
3. 助成金・独自事業に関する調査費	6,100,000
..... ①地域自然環境の保全、再生に係る調査及び研究	2,200,000
..... ②地域自然環境の保全、再生に係る実施計画及び実施事業	800,000
..... ③地域自然環境の保全、再生に係る行政機関、事業主体、特定非営利活動法人、及び市民ボランティア団体への助言または技術的援助	800,000
..... ④地域自然環境の保全、再生に係る講演、出版、教育事業	1,000,000
..... ⑤地域自然環境の保全、再生に係る行政、事業主体、研究機関、教育機関、学会との交流	800,000
..... ⑥その他本法人の目的達成のために必要な事業	500,000
5. 予備費	220,101
<b>合計</b>	<b>19,424,101</b>



センター事務局よりお知らせ

～最近の森林再生支援センターの活動～

○第14回定時総会/シンポジウムを開催

2012年8月12日(日)に第14回定時総会を開催しました(本紙に議事録掲載)。また同日午後から、以下の内容でシンポジウム「ナラ枯れが大変だ!ナラ枯れ後も大変だ!」を開催し、約90名の方々にご参加いただきました。

- ◆タイトル:ナラ枯れが大変だ!ナラ枯れ後も大変だ!
- ◆日時:2012年8月12日(日)13時30分～16時30分
- ◆場所:キャンパスプラザ京都 ホール(2階)
- ◆プログラム

開会・あいさつ(藤田昇理事長)

講演1:「ナラ枯れが大変だ!」

小林正秀(京都府森林技術センター)

講演2:「ナラ枯れ後も大変だ!」

高田研一(森林再生支援センター)

円卓会議:テーマ;京都の山、森を語り合う

京都の山のカシノナガキクイムシによるナラ枯れは一昨年1万7千本、昨年1万3千本と猛威をふるっていますが、この大量枯死をまえにして、「被害」として防除をすすめるのか、それとも植生遷移として理解し、遷移のプロセスとして次世代の後継樹の生育がシカによる食害などによって阻害されていることが問題なのかという議論がありました。

○前鬼・弥山調査を実施

過年度から独自事業として行っている、弥山調査区および前鬼調査区(ともに奈良県)の現地調査を、2012年9月7日(金)～11日(火)、9月21日(金)～23日(日)に延べ50人で行いました。

○H24大台ヶ原自然再生調査を実施

(株)環境総合テクノス(KANSO)からの委託事業で、H22年度に行った稚樹の追跡調査を行

いました。現地調査は2012年8月から9月にかけて3回行われ、終了しています。



防鹿柵内での調査の様子

○「観察の森づくり」に講師を派遣

2012年10月14日(日)、28日(日)、12月9日(日)に法然院裏山の善気山(京都市・東山)で行われた「観察の森づくり」(フィールドソサイエティー主催)へ講師を派遣しました。

10月14日は「千年の森づくり～列島の森に刻まれた知恵～」と題した研究会の中で、「森林の再生を学ぶ」という内容でお話をさせていただきました。10月28日はナラ枯れ伐採跡地で子供たちと植樹を行うための植栽箇所を選定、植栽木の選択等を行い、12月9日に16名の子供たちと一緒に植樹を行いました。12×8mの大きさの防鹿柵の中に、アカシデ、イヌシデ、オオモミジ、コバノガマズミ、モミ、アカガシなど計39本の地域性苗木を約2時間かけて丁寧に植えました。

センター活動へのお問い合わせ、ご意見・ご提案、センター入会申し込みは下記まで

特定非営利活動法人 森林再生支援センター事務局

〒603-8145 京都市北区小山堀池町28-5

TEL 075-211-4229 FAX(TEL兼用) 075-432-0026

E-mail:info@cm.net URL:http://www.cm.net